



学習指導改善調査研究事業

「報告書」の活用を！

研修担当理事 大津 隆一

説明責任を問われたり、客観的データを求められたりする時代になりました。県教委は、チャレンジ21の評価結果を数値で示すよう求めています。当研究会の学習指導改善調査研究事業「報告書」は、このような時代の学校(学年・学級)経営に、貴重な資料を提供しています。

自校のデータと「報告書」の解説を対応して検討すると、各校の学力向上への糸口が、必ず見付かります。報告書の解説が、出題の意図と指導のポイントを端的に示しているからです。県の平均点や誤答傾向を見るだけにとどめず、出題の意図の理解に努め、指導のポイントを参考に、学力向上の取組に役立てたいものです。

例えば、4年国語は漢字を書く力を見る問題で、「得意」という漢字を出題しています。当校の正答率32%は、県平均を10%も下回りました。「得意」という言葉のように、学校生活の中でよく使われる言葉を選んで、「書く場を意図的に設定すること」(報告書の指導のポイント)を、当校の方策としました。一方、「得」は、4年の新出漢字ですから、5年までに書くことができるようになればよいのです。そこで、正答率の低さにとらわれず、子供の学力の伸びに期待するゆとりを持つことにしました。

最近、学習指導改善調査研究事業「報告書」を資料に、学力向上への取組を地域ぐるみで行うところが見られるようになりました。本年度15年次を迎えた本事業が、県教育委員会の求める確かなデータに基づく学習指導の改善に結び付くよう、各校における活用をぜひお願いいたします。

平成13年度新潟県小学校教育研究会役員

平成13年度役員の方々は、次のとおりです。

会 長	山岸 宏(上越・東本町小)	〃	水嶋 陸男(上越・大和小)
副会長	小黒 正範(長岡・表町小)	〃	濱田 敏子(新潟・東青山小)
〃	樋浦 晃治(新潟・新潟小)	〃	長野 克水(上越・高志小)
理 事	矢坂 精一(新潟・新井小)	〃	伊藤 和恭(新潟・新津第一小)
〃	神林 晃正(長岡・阪之上小)	〃	町田 昌(十日町・十日町小)
〃	渡辺 俊雄(北魚・堀之内小)	監 査	佐藤 英尊(糸魚川・糸魚川小)
〃	臼井 一郎(上越・大手町小)	〃	岸本 賢一(燕・燕東小)
〃	和泉 劭平(新潟・東山下小)	〃	太田 剛(小千谷・小千谷小)
〃	保科 博昭(見附・見附小)	幹 事	末崎 和成(新潟・白山小)
〃	岩佐 昭恵(新潟・外ヶ輪小)	〃	中嶋 浩(柏崎・柏崎小)
〃	大津 隆一(新潟・浜浦小)	〃	山岸 巖(新潟・青山小)

・6月の第1回評議員会において承認されました。